

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成25年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の子実用作付面積は26万9,500haで、前年産並みとなった。（表2-1、図2-1）

イ 収穫量

平成25年産4麦の子実用収穫量は99万4,600tで、前年産に比べて3万5,400t（3%）減少した。（表2-1、図2-1）

図2-1 4麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

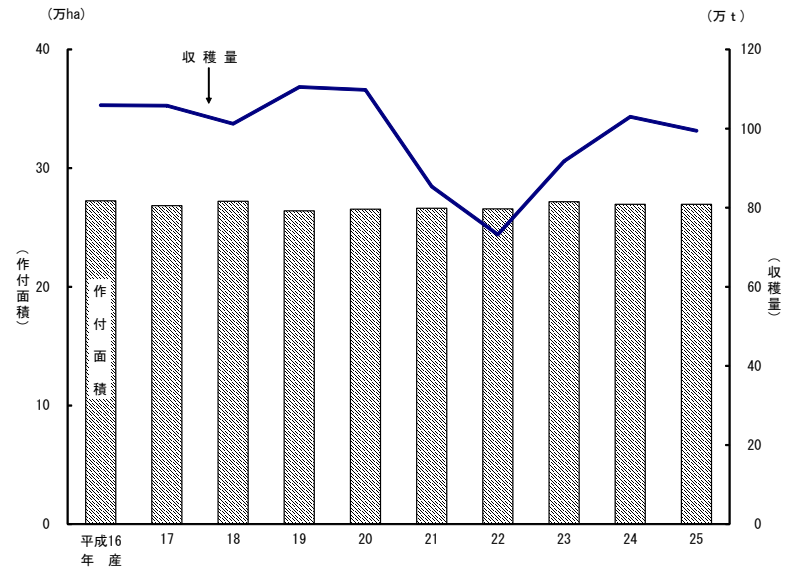


表2-1 平成25年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国											
4 麦 計	269,500	...	994,600	0	100	nc	△ 35,400	97	nc	...	
小 麦	210,200	386	811,700	1,000	100	94	△ 46,100	95	102	379	
二条大麦	37,500	311	116,600	△ 800	98	106	4,200	104	94	331	
六条大麦	16,900	305	51,500	△ 200	99	109	3,700	108	105	291	
はだか麦	5,010	293	14,700	40	101	120	2,500	120	102	288	
北 海 道											
4 麦 計	123,800	...	537,000	2,600	102	nc	△ 55,800	91	nc	...	
小 麦	122,000	436	531,900	2,800	102	89	△ 54,200	91	101	430	
二条大麦	1,740	292	5,080	△ 250	87	87	△ 1,630	76	87	335	
はだか麦	4	x	x	4	nc	x	x	x	x	-	
都 府 県											
4 麦 計	145,700	...	457,600	△ 2,700	98	nc	20,200	105	nc	...	
小 麦	88,100	318	279,800	△ 2,000	98	105	8,100	103	103	309	
二条大麦	35,700	312	111,500	△ 600	98	107	5,900	106	94	331	
六条大麦	16,900	305	51,500	△ 200	99	109	3,700	108	105	291	
はだか麦	5,010	293	14,700	40	101	120	2,500	120	102	288	

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である（以下各統計表において同じ。）。

2 全国、都府県及び全国農業地域別（以下「地域別」という。）の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。

ただし、地域別内の全ての都道府県の10a 当たり平均収量がそろわない場合には作成しない（以下各統計表において同じ。）。

3 北海道において、六条大麦の作付けは行われていない。

表 2-2 平成25年産小麦（子実用）の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全 農 業 地 域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				は だ か 麦			
	作付面積	収 穫 量	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比
全 国	269,500	994,600	210,200	386	811,700	102	37,500	311	116,600	94	16,900	305	51,500	105	5,010	293	14,700	102
北 海 道	123,800	537,000	122,000	436	531,900	101	1,740	292	5,080	87	-	-	-	nc	4	x	x	x
都 府 県	145,700	457,600	88,100	318	279,800	103	35,700	312	111,500	94	16,900	305	51,500	105	5,010	293	14,700	102
東 北	8,260	18,400	7,260	211	15,300	107	x	133	x	80	997	304	3,030	118	-	-	-	nc
北 陸	9,860	29,300	174	176	307	108	10	210	21	175	9,680	301	29,100	100	-	-	-	nc
関 東・東 山	38,800	144,400	21,100	374	78,900	114	13,000	383	49,800	116	4,690	326	15,300	115	57	335	191	93
東 海	15,400	51,000	14,700	336	49,400	119	x	167	x	298	614	259	1,590	104	x	x	x	nc
近 畿	9,980	25,800	8,830	256	22,600	100	164	234	383	105	770	295	2,270	98	220	270	593	99
中 国	4,760	14,400	1,630	268	4,370	100	2,650	344	9,110	93	94	215	202	121	x	189	x	92
四 国	4,320	14,600	1,730	364	6,290	118	20	340	68	97	-	-	-	nc	2,570	319	8,190	103
九 州	54,300	159,600	32,700	314	102,700	90	19,900	261	52,000	80	10	390	39	163	1,780	279	4,970	102
沖 縄	16	36	16	225	36	148	-	-	-	nc	-	-	-	nc	-	-	-	nc

(2) 解 説

ア 小麦（子実用）

(ア) 作付面積

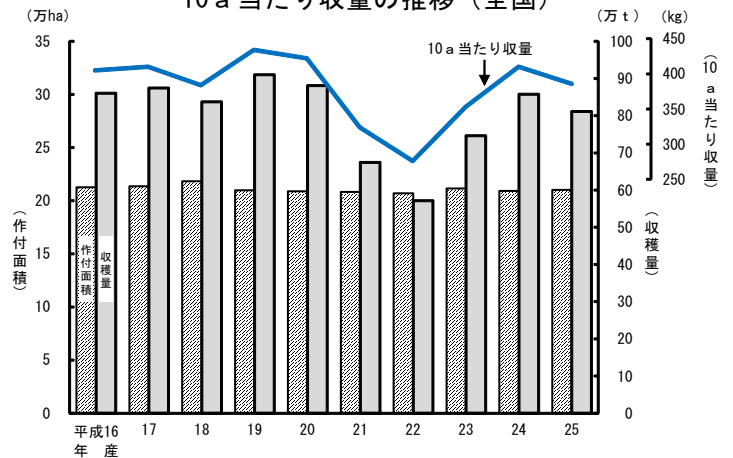
小麦の子実用作付面積は21万200haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は12万2,000haで、他作物からの転換等により、前年産に比べて2,800ha（2%）増加した。

一方、都府県は8万8,100haで、九州地域等において他作物への転換等により、前年産に比べて2,000ha（2%）減少した。

（表 2-1、2-2、図 2-2）

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は386kgで、前年産に比べて6%下回った。（表 2-1、2-2、図 2-2）

a 北海道

10a 当たり収量は436kgで、前年産に比べて11%下回った。

これは、登熟期において高温・少雨で推移したことから登熟期間が短縮し、細麦傾向となったためである。（表 2-1、2-2、図 2-3）

b 都府県

10a 当たり収量は318kgで、前年産に比べて5%上回った。

これは、天候に恵まれ生育がおおむね良好であったためである。

（表 2-1、2-2、図 2-4）

(ウ) 収穫量

収穫量は81万1,700 tで、前年産に比べて4万6,100 t（5%）減少した。

このうち、北海道の収穫量は53万1,900tで、前年産に比べて5万4,200 t（9%）減少した。

一方、都府県の収穫量は27万9,800tで、前年産に比べて8,100t（3%）増加した。

（表2-1、2-2、図2-2）

図2-3 平成25年産麦作作期間の半旬別
気象経過（帯広）

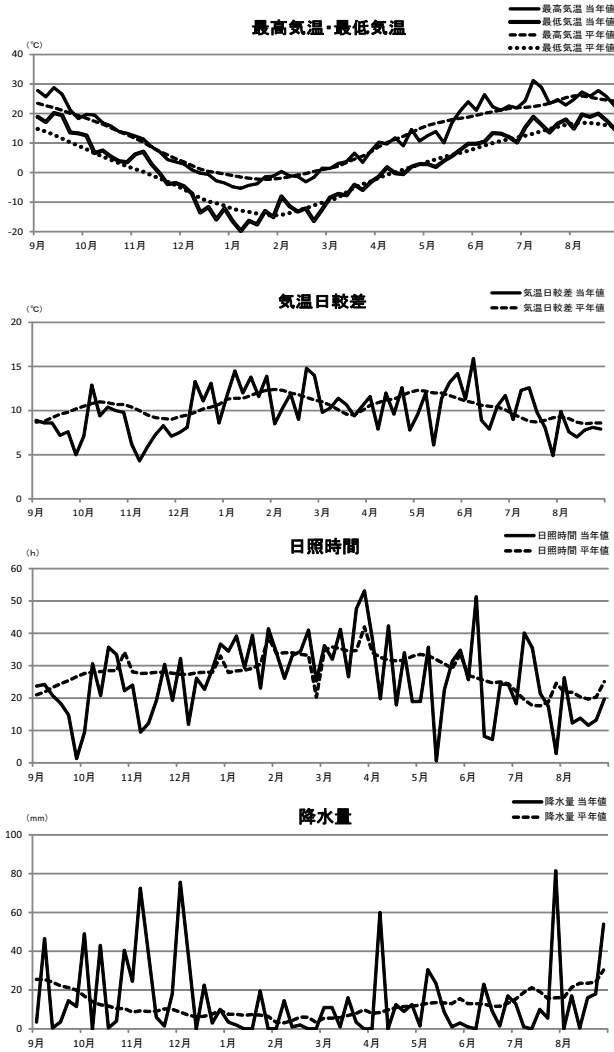
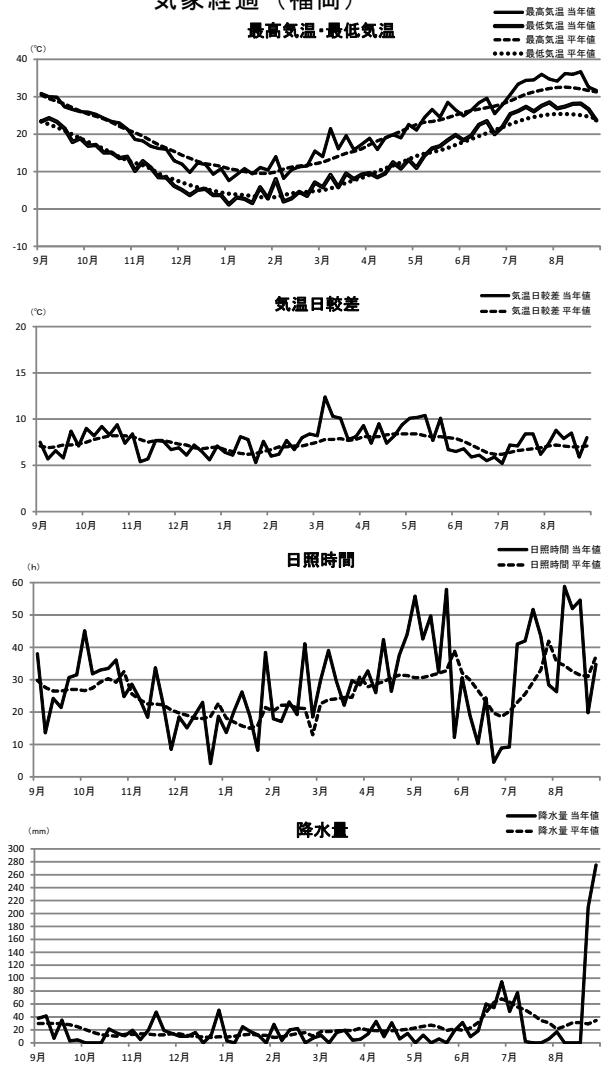


図2-4 平成25年産麦作作期間の半旬別
気象経過（福岡）



イ 二条大麦（子実用）

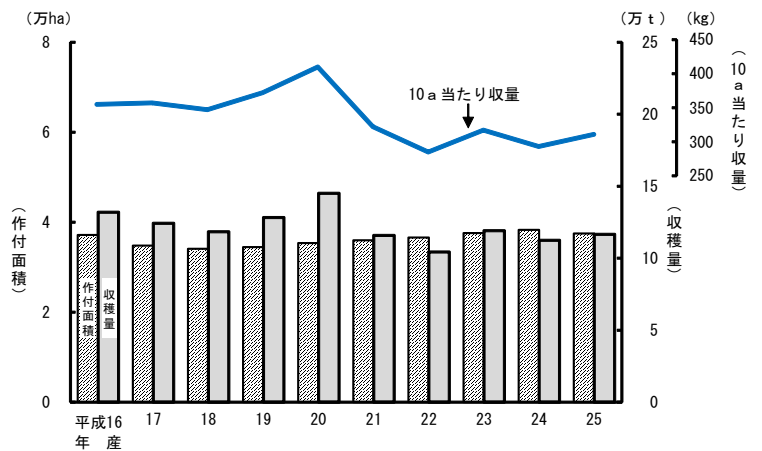
(ア) 作付面積

二条大麦の子実用作付面積は3万7,500haで、前年産に比べて800ha（2%）減少した。

このうち、北海道は1,740haで、小麦等への転換により前年産に比べて250ha（13%）減少した。

一方、都府県は3万5,700haで、関東・東山地域等において他作物への転換等により、前年産に比べて600ha（2%）減少した。（表2-1、2-2、図2-5）

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は311kgで、前年産に比べて6%上回った。

これは、は種時期の降雨の影響等を受けた北海道及び九州地域を除き、天候に恵まれ生育がおおむね良好であったためである。（表2-1、2-2、図2-5、2-6、2-7）

(ロ) 収穫量

収穫量は11万6,600tで、前年産に比べて4,200t（4%）増加した。（表2-1、2-2、図2-5）

図2-6 平成25年産麦作期間の半月別気象経過（栃木）

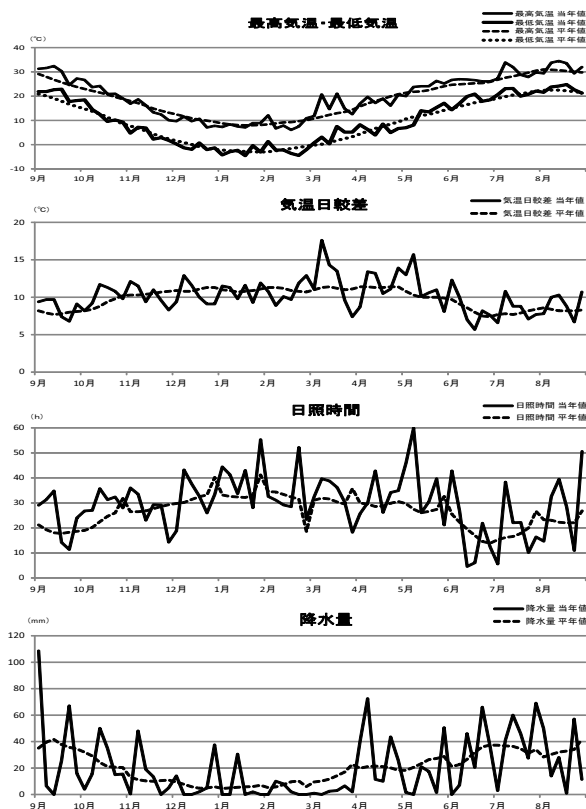
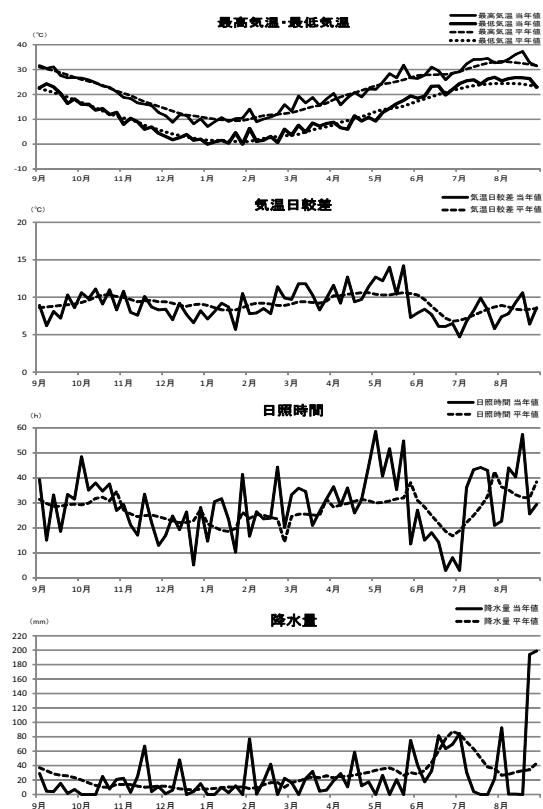


図2-7 平成25年産麦作期間の半月別気象経過（佐賀）



ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の子実用作付面積は1万6,900haで、前年産に比べて200ha（1%）減少した。（表2-1、2-2、図2-8）

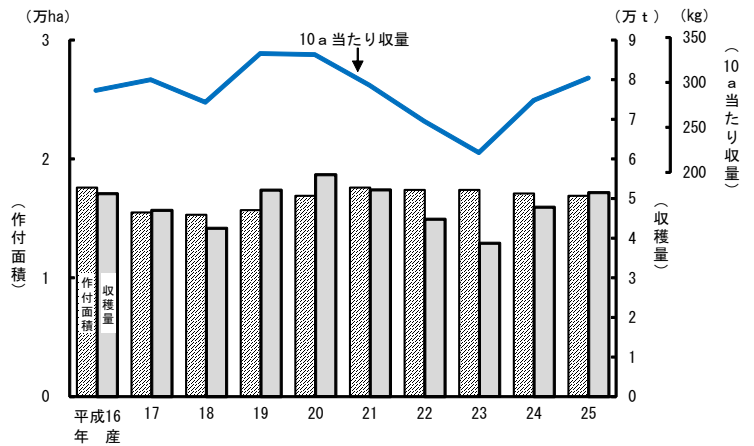
(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は305kgで、前年産に比べて9%上回った。

これは、天候に恵まれ生育がおおむね良好となったためである。

（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は5万1,500tで、前年産に比べて3,700t（8%）増加した。（表2-1、2-2、図2-8）

図2-9 平成25年産麦作期間の半旬別気象経過（富山）

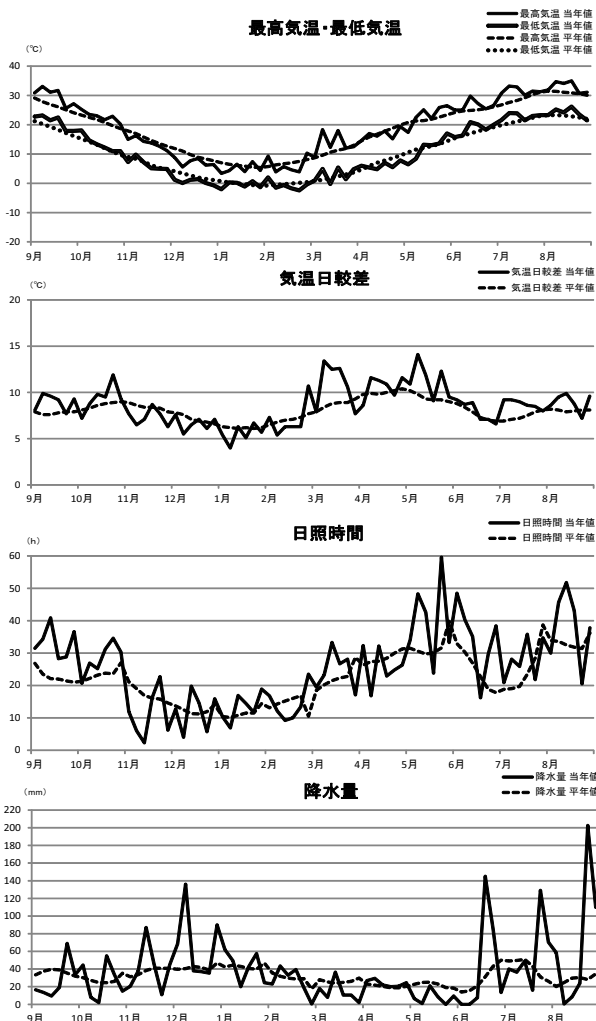
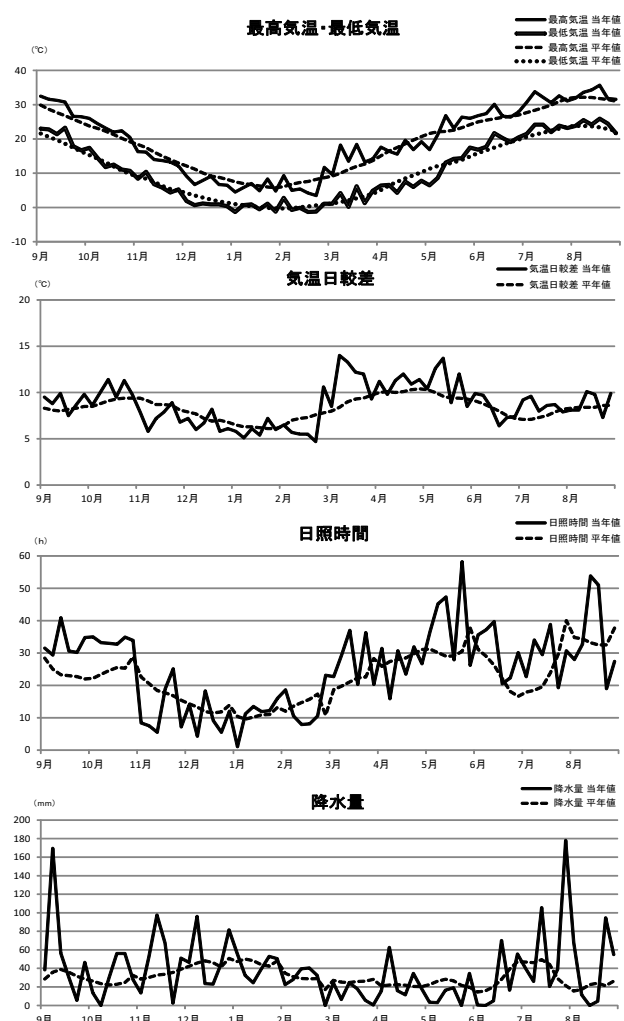


図2-10 平成25年産麦作期間の半旬別気象経過（福井）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の子実用作付面積は5,010haで、前年産に比べて40ha（1%）増加した。（表2-1、2-2、図2-11）

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は293kgで、前年産に比べて20%上回った。

これは、天候に恵まれ生育がおおむね良好となったためである。

（表2-1、2-2、図2-11、2-12、2-13）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万4,700tで、前年産に比べて2,500t（20%）増加した。（表2-1、2-2、図2-11）

図2-11 はだか麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

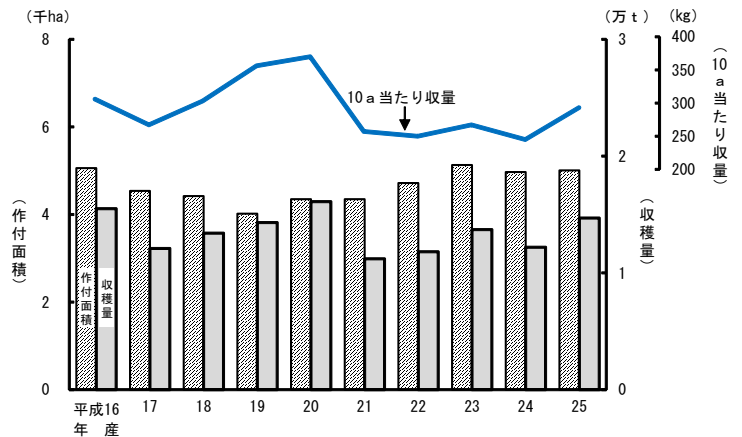


図2-12 平成25年産麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

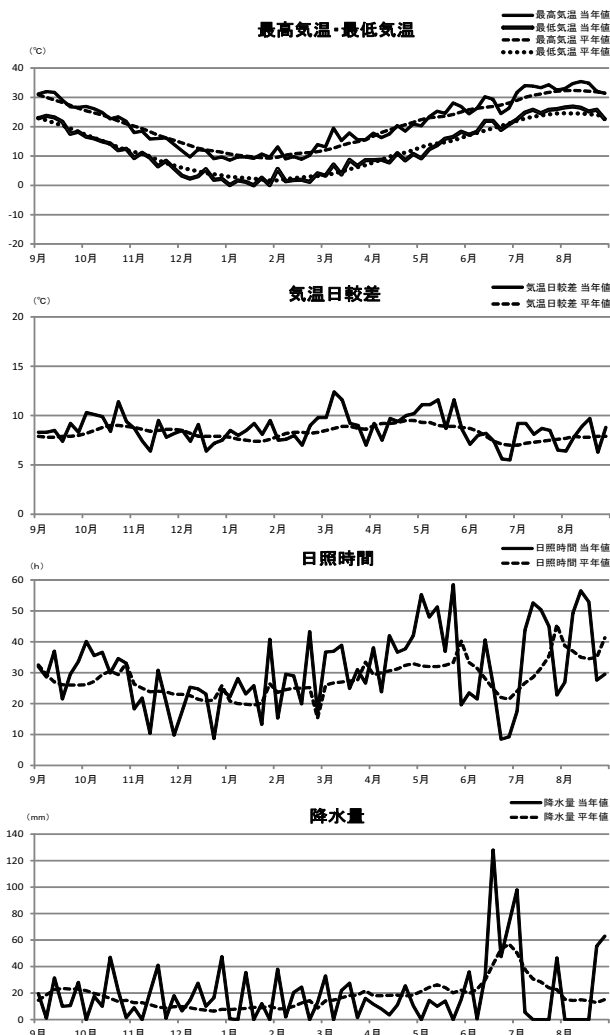
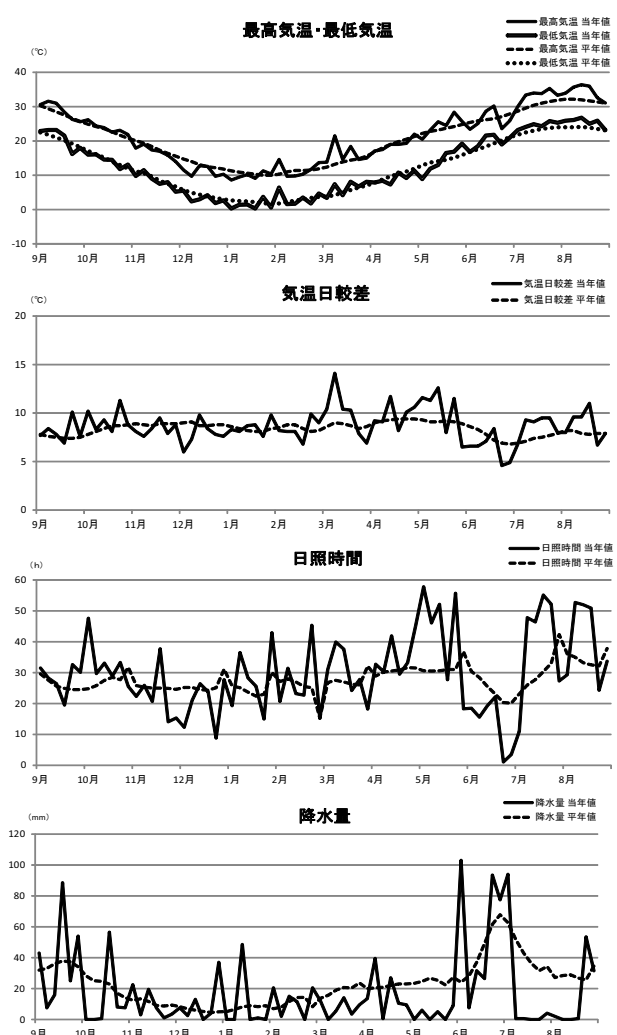


図2-13 平成25年産麦作期間の半旬別気象経過（大分）



3 豆類・そば

(1) 要旨

平成25年産の豆類（乾燥子実）の全国の収穫量は、大豆が19万9,900 tで、前年産に比べて3万6,000 t（15%）減少し、小豆が6万8,000 tで、前年産並みとなった。いんげんは1万5,300 tで、前年産に比べて2,700 t（15%）減少した。らっかせいは1万6,200 tで、前年産に比べて1,100 t（6%）減少した。また、平成25年産そばの収穫量は3万3,400 tで、前年産に比べて1万1,200 t（25%）減少した。（表3）

表3 平成25年産豆類（乾燥子実）及びそばの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10 a 当 たり 平均収量 対	10 a 当 たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
大 豆	128,800	155	199,900	△ 2,300	98	86	△ 36,000	85	91	171	
小 豆	32,300	211	68,000	1,600	105	95	△ 200	100	nc	…	
いんげん	9,120	168	15,300	△ 530	95	90	△ 2,700	85	nc	…	
らっかせい	6,970	232	16,200	△ 210	97	96	△ 1,100	94	nc	…	
そ ば	61,400	54	33,400	400	101	74	△ 11,200	75	84	64	

注：小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである。

(2) 解説

ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成25年産大豆の作付面積は12万8,800haで、前年産に比べて2,300ha（2%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである。（表3、図3-1）

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は155kgで、前年産に比べて14%下回った。

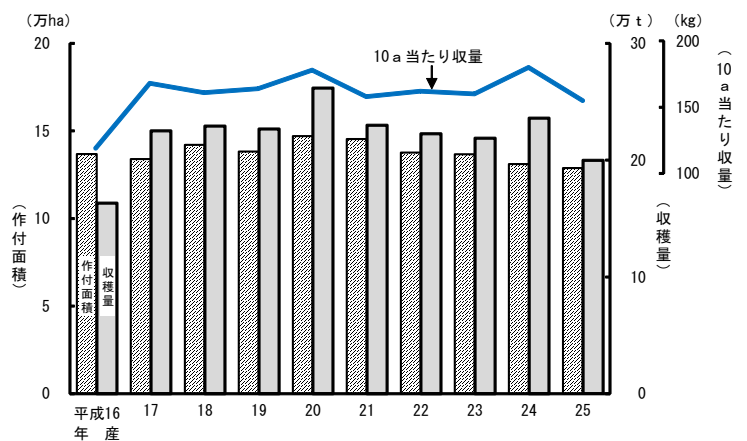
これは、台風被害、天候不順による登熟期の生育抑制等のためである。

（表3、図3-1）

(ウ) 収穫量

収穫量は19万9,900 tで、前年産に比べて3万6,000 t（15%）減少した。（表3、図3-1）

図3-1 大豆の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



イ 小豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成25年産小豆の作付面積は3万2,300haで、前年産に比べて1,600ha（5%）増加した。

このうち、全国の約8割を占める北海道の作付面積は2万6,200haで、前年産に比べて1,800ha（7%）増加した。

（表3、図3-2）

(イ) 10a 当たり収量

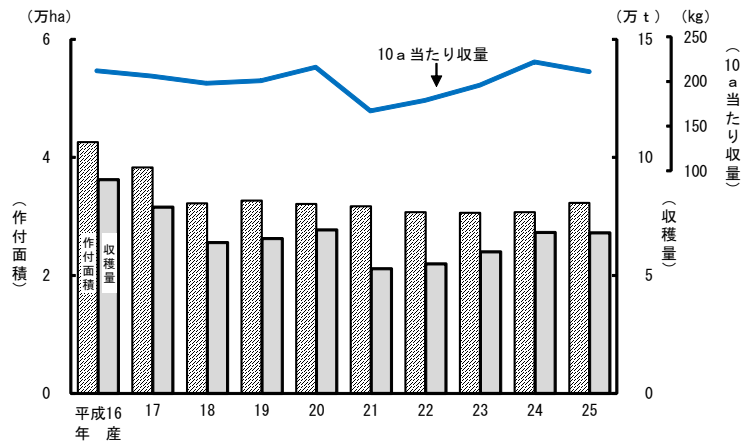
10a 当たり収量は211kgで、前年産に比べて5%下回った。

これは、主産地である北海道において生育がおおむね良好であったものの、登熟期の高温により、粒の肥大が抑制されたためである。（表3、図3-2）

(ウ) 収穫量

収穫量は6万8,000tで、前年産並みとなった。（表3、図3-2）

図3-2 小豆の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成25年産いんげんの作付面積は9,120haで、前年産に比べて530ha（5%）減少した。

このうち、全国の約9割を占める北海道の作付面積は8,380haで、前年産に比べて490ha（6%）減少した。

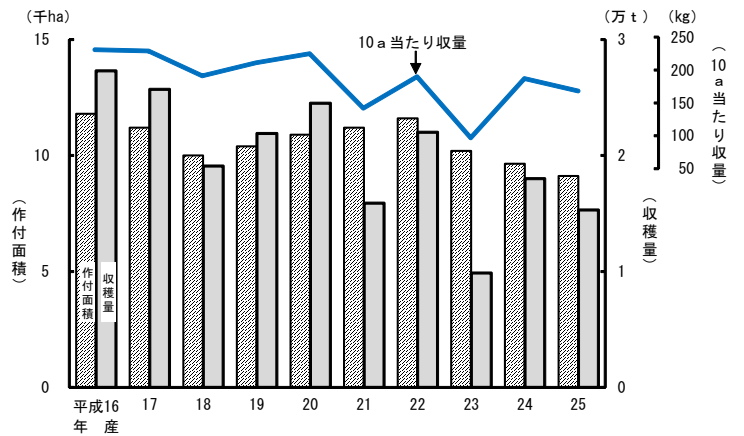
（表3、図3-3）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は168kgで、前年産に比べて10%下回った。

これは、主産地である北海道において、8月下旬以降の降雨及び台風の影響により、色流れ粒等が発生したためである。（表3、図3-3）

図3-3 いんげんの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は1万5,300tで、前年産に比べて2,700t（15%）減少した。（表3、図3-3）

エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成25年産らっかせいの作付面積は6,970haで、前年産に比べて210ha（3%）減少した。

このうち、全国の約8割を占める千葉県で作付面積は5,360haで、前年産に比べて90ha（2%）減少した。

（表3、図3-4）

(イ) 10a当たり収量

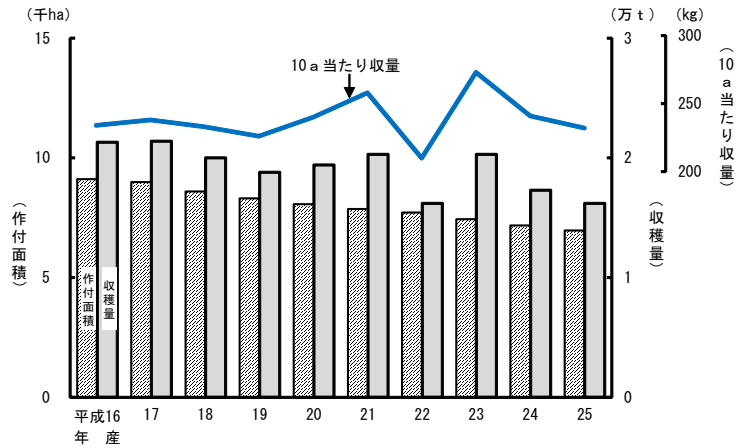
10a当たり収量は232kgで、前年産に比べて4%下回った。

これは、主産地である千葉県において、掘取り後の乾燥中の降雨の影響により、腐敗等が発生したためである。（表3、図3-4）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万6,200tで、前年に比べて1,100t（6%）減少した。（表3、図3-4）

図3-4 らっかせいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



オ そば

(ア) 作付面積

平成25年産そばの作付面積は6万1,400haで、前年産に比べて400ha（1%）増加した。（表3、図3-5）

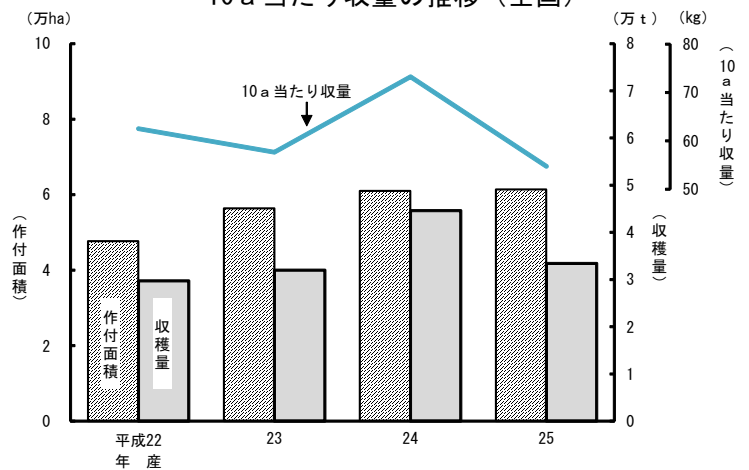
(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は54kgで、前年産に比べて26%下回った。

これは、台風の影響及び天候不順による生育の抑制があったためである。

（表3、図3-5）

図3-5 そばの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は3万3,400tで、前年産に比べて1万1,200t（25%）減少した。（表3、図3-5）

4 かんしょ

(1) 作付面積

平成25年産かんしょの作付面積は3万8,600haで、前年産に比べて200ha（1%）減少した。（表4、図4）

(2) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,440kgで、前年産に比べて8%上回った。

これは、九州において天候に恵まれ生育がおおむね良好となったためである。

（表4、図4）

(3) 収穫量

収穫量は94万2,300tで、前年産に比べて6万6,400t（8%）増加した。（表4、図4）

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

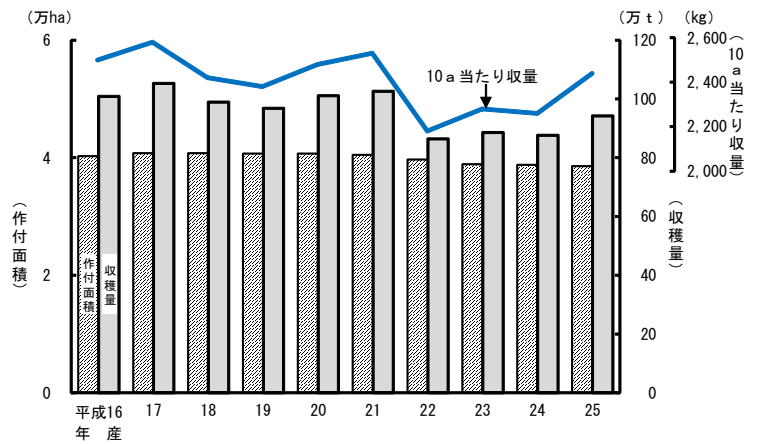


表4 平成25年産かんしょの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比	%	kg	
全 国	38,600	2,440	942,300	△ 200	99	108	△ 66,400	108	nc	...	
うち 茨城	6,660	2,710	180,500		20	100	△ 100	100	104	2,600	
千葉	4,440	2,480	110,100	△	100	98	△ 8,400	93	98	2,530	
静岡	747	1,590	11,900	△	43	95	△ 900	93	88	1,800	
徳島	1,140	2,440	27,800	△	10	99	△ 500	102	102	2,400	
熊本	1,140	2,230	25,400	△	30	97	△ 300	99	98	2,270	
宮崎	3,440	2,730	93,900		240	108	15,500	120	108	2,520	
鹿児島	13,700	2,730	374,000	△	100	99	53,800	117	102	2,670	

注：かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付（栽培）面積

主産県の平成25年産牧草の作付（栽培）面積は68万5,300haで、前年産に比べて4,100ha（1％）減少した。

（表5-1、図5-1）

イ 10aあたり収量

主産県の10aあたり収量は3,340kgで、前年産に比べて3％下回った。

これは、北海道及び東北地域において、4月から5月の低温等により生育が抑制されたためである。

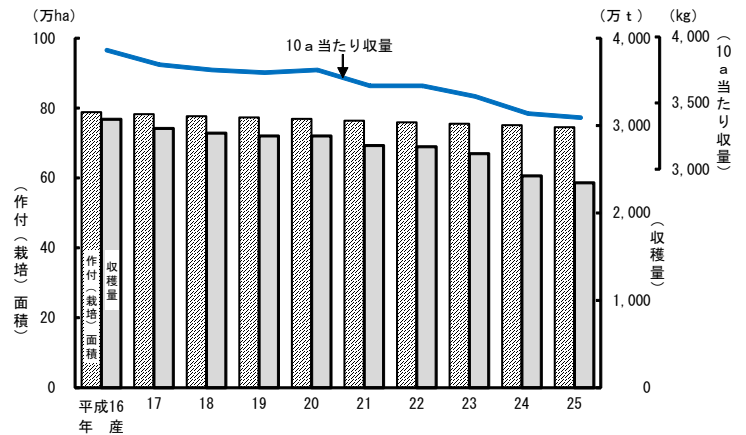
（表5-1、図5-1）

ウ 収穫量

主産県の収穫量は2,286万1,000tで、前年産に比べて75万3,000t（3％）減少した。

（表5-1、図5-1）

図5-1 牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10aあたり収量の推移（全国）



注：平成24年産及び25年産の10aあたり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県の合計値である。

表5-1 平成25年産牧草の作付（栽培）面積、10aあたり収量及び収穫量

区 分	作付(栽培)面積	10 a 当たり収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付(栽培)面積		10 a 当たり収量		収 穫 量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国	745,500	△ 5,300	99	nc	nc	nc	nc	nc	...
主 産 県 計	691,000	3,390	23,454,000	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	...
	(685,300)	(3,340)	(22,861,000)	(△ 4,100)	(99)	(97)	(△ 753,000)	(97)	(84)	(3,990)	
う ち 北 海 道	545,800	3,170	17,302,000	△ 3,100	99	96	△ 757,000	96	95	3,340	

注：1 飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。

2 全国の収穫量については、全国調査を行わない年は主産県の調査結果から推計することとしているが、本年産は放射性物質調査の結果により給与自粛措置が行われた地域があったことから、全国値の推計を行わず「…」とした。

3 平成25年産において主産県の範囲の見直し等により、沖縄県が主産県となり、平成24年産で主産県であった秋田県、山形県、長野県及び鳥取県については主産県ではなくなった（以下飼料作物の各統計表において同じ。）。

主産県計の（ ）内の数値は、平成24年産及び平成25年産で共通する主産県で集計したものである。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

平成25年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,500haで、前年産に比べて500ha（1%）増加した。

（表5-2、図5-2）

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は5,180kgで、前年産に比べて1%下回った。

（表5-2、図5-2）

ウ 収穫量

収穫量は478万7,000tで、前年産に比べて3万9,000t（1%）減少した。（表5-2、図5-2）

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

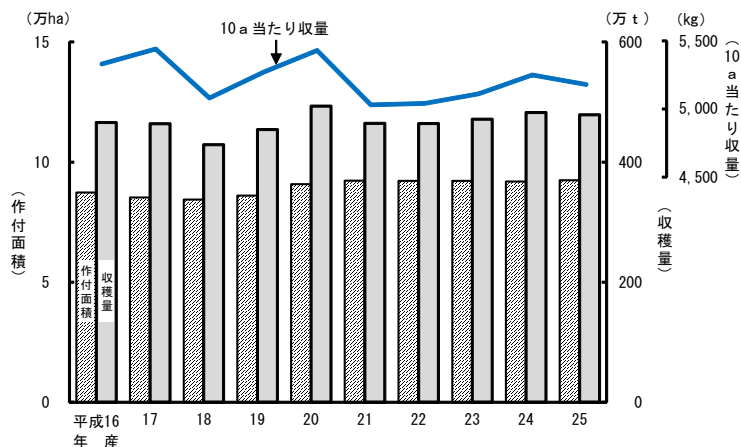


表5-2 平成25年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全国	92,500	5,180	4,787,000	500	101	99	△ 39,000	99	nc	…	
うち北海道	49,500	5,490	2,718,000	1,200	102	99	47,000	102	104	5,300	

注： 飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである（表5-3について同じ。）。

(3) ソルゴ

ア 作付面積

平成25年産ソルゴの作付面積は1万6,500haで、前年産に比べて500ha(3%)減少した。(表5-3、図5-3)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,320kgで、前年産に比べて2%上回った。

(表5-3、図5-3)

ウ 収穫量

収穫量は87万7,000tで、前年産に比べて1万3,700t(2%)減少した。(表5-3、図5-3)

図5-3 ソルゴの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)

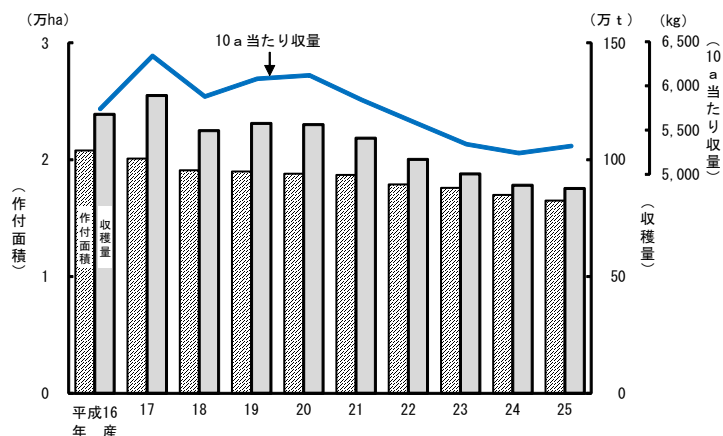


表5-3 平成25年産ソルゴの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全国	16,500	5,320	877,000	△ 500	97	102	△ 13,700	98	nc	…	

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積（全国）

平成25年茶の栽培面積は4万5,400haで、前年に比べて500ha（1%）減少した。（表6-1）

表6-1 茶の栽培面積（全国）

単位：ha

区 分	栽 培 面 積
平成24年	45,900
25	45,400
対前年比（%）	99

イ 摘採実面積（主産県）

主産県の茶の摘採実面積は3万7,700haで、前年産に比べて800ha（2%）減少した。（表6-2）

ウ 生葉収穫量（主産県）

主産県の茶の生葉収穫量は38万3,400tで、前年産に比べて1万7,900t（4%）減少した。

これは、一番茶の生育が凍霜害による被害や4月中旬以降の低温により抑制されたこと等のためである。（表6-2）

エ 荒茶生産量（主産県）

主産県の荒茶生産量は8万2,800tで、前年産に比べて3,100t（4%）減少した。府県別にみると、静岡県が3万2,200t（主産県の荒茶生産量の39%）、次いで鹿児島県が2万5,600t（同31%）、三重県が7,130t（同9%）となっている。（表6-2、図6-1）

図6-1 荒茶生産量割合（主産県）

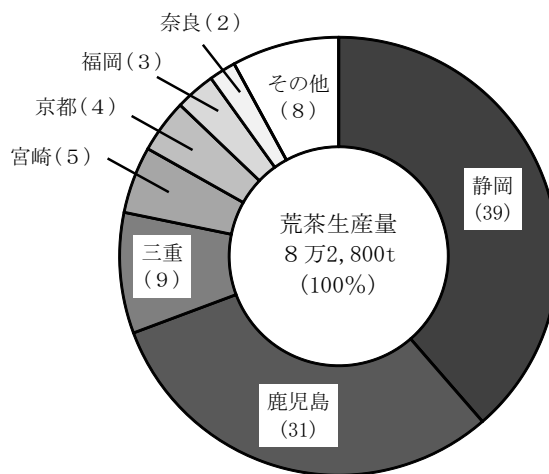


表6-2 平成25年産茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘 採 面 積		10 a 当 たり 生 葉 収 量			生 葉 収 穫 量			荒 茶 生 産 量		
	実面積	延べ面積	一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶	
	ha	ha	kg	kg	kg	t	t	t	t	t	t
平成24年産	38,500	86,400	1,040	482	457	401,300	185,700	108,300	85,900	38,100	22,000
25	37,700	86,600	1,020	400	503	383,400	150,300	125,700	82,800	30,800	26,000
対前年産比（%）	98	100	98	83	110	96	81	116	96	81	118

注：茶の収穫量調査は主産県調査であり、5年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。

(2) なたね

ア 作付面積

平成25年産なたねの作付面積は1,590haで、前年産に比べて20ha（1%）減少した。（表6-3、図6-2）

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は111kgで、前年産に比べて4%下回った。

これは、北海道において5月下旬以降おおむね天候に恵まれたものの、作柄の良かった前年産に比べて16%下回ったこと等による。（表6-3、図6-2）

ウ 収穫量

収穫量は1,770 t で、前年産に比べて100 t （5%）減少した。（表6-3、図6-2）

図6-2 なたねの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

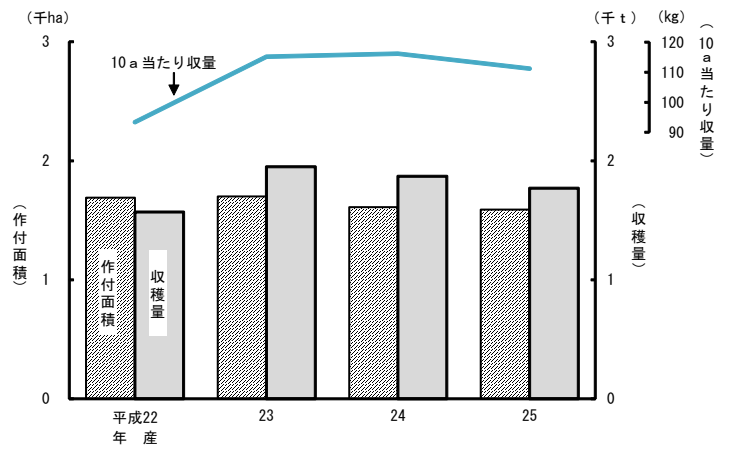


表6-3 平成25年産なたねの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり収量	収穫量		10a 当たり平均収量対	10a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全国	1,590	111	1,770	△ 20	99	96	△ 100	95	nc	…	
北海道	430	184	791	23	106	84	△ 96	89	101	183	
都府県	1,160	84	978	△ 40	97	102	△ 3	100	nc	…	

(3) てんさい

ア 作付面積

平成25年産てんさいの作付面積は5万8,200 haで、前年産に比べて1,100ha（2%）減少した。

これは、麦類、豆類等への転換があったこと等による。（表6-4、図6-3）

イ 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は5,900kgで、前年産に比べて7%下回った。

これは、主産地であるオホーツク地域等において、降雨等により移植が遅れ、生育が抑制されたためである。

（表6-4、図6-3）

ウ 収穫量

収穫量は343万5,000 t で、前年産に比べて32万3,000 t（9%）減少した。

（表6-4、図6-3）

図6-3 てんさいの作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（北海道）

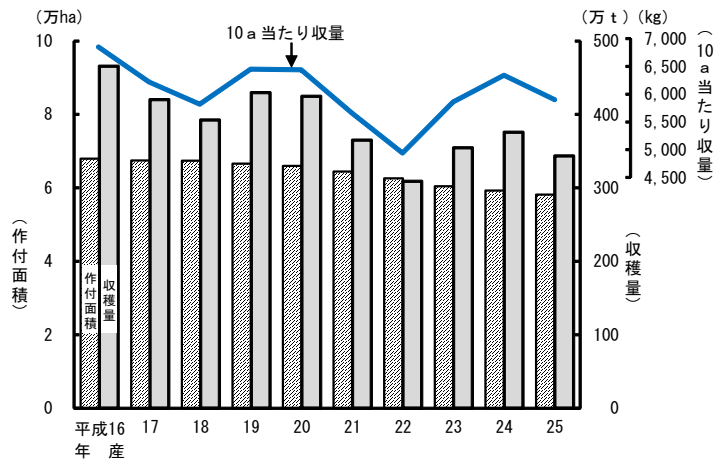


表6-4 平成25年産てんさいの作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量		10 a 当たり平均収量対	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
北海道	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
	58,200	5,900	3,435,000	△ 1,100	98	93	△ 323,000	91	98	6,020

注：てんさいの収穫量調査は、北海道を対象に行っている。

(4) さとうきび

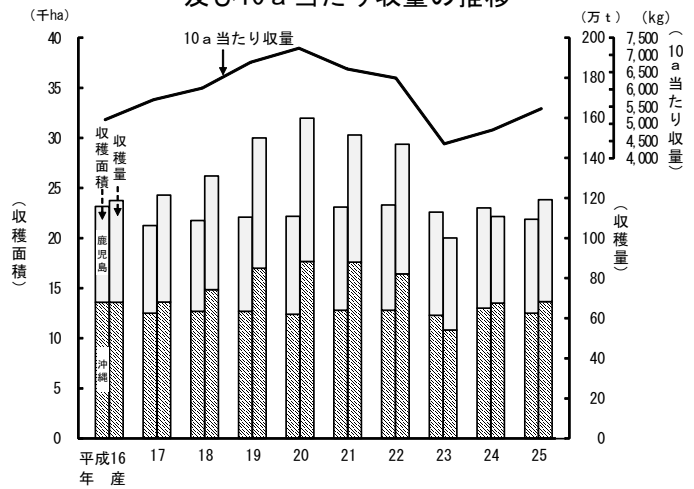
ア 収穫面積

平成25年産さとうきびの収穫面積は2万1,900haで、前年産に比べて1,100ha(5%)減少した。

これは、鹿児島県で栽培面積が前年並みとなったものの、本年産の収穫となる春植え栽培等が減少したこと及び沖縄県で2年連続の不作等により栽培面積が減少したことによる。

(表6-5、図6-4)

図6-4 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移



イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,440kgで、前年産に比べて13%上回った。

これは、夏場の干ばつによる生育抑制並びに7月及び10月における相次ぐ台風による被害等があったことから、昭和49年産以降で5番目に低い水準であった。(表6-5、図6-4)

ウ 収穫量

収穫量は119万1,000tで、前年産に比べて8万3,000t(7%)増加した。

(表6-5、図6-4)

表6-5 平成25年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収 穫 面 積				10 a 当 た り 収 量			
		計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全 国 平成24年産	30,200	23,000	6,600	4,170	12,200	4,820	6,580	3,960	4,170
25	29,500	21,900	5,910	3,150	12,900	5,440	7,080	4,970	4,780
前年産との比較 (%)	98	95	90	76	106	113	108	126	115
鹿 児 島	11,600	9,380	1,130	1,880	6,360	5,420	6,750	5,500	5,170
前年産との比較 (%)	100	94	98	82	97	125	122	133	124
沖 縄	17,900	12,500	4,780	1,270	6,490	5,460	7,160	4,180	4,430
前年産との比較 (%)	96	96	88	68	114	105	105	111	107

区分	収 穫 量			
	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
	t	t	t	t
全 国 平成24年産	1,108,000	434,200	165,200	508,200
25	1,191,000	418,600	156,500	616,200
前年産との比較 (%)	107	96	95	121
鹿 児 島	508,200	76,300	103,400	328,500
前年産との比較 (%)	118	120	109	120
沖 縄	683,100	342,300	53,100	287,700
前年産との比較 (%)	101	92	76	122

注：さとうきびの収穫量調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

(5) こんにゃくいも（主産県）

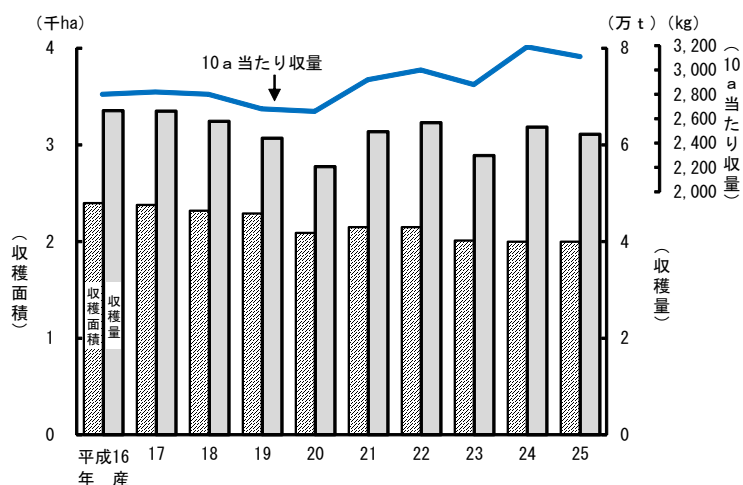
ア 栽培面積・収穫面積

主産県の平成25年産こんにゃくいもの栽培面積は3,570haで前年産並みとなった。また、主産県の収穫面積は2,000haで前年産並みとなった。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの栽培面積は3,430haで、前年産に比べて20ha（1％）増加し、収穫面積は1,920haで、前年産に比べて10ha（1％）増加した。

（表6-6、図6-5）

図6-5 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）



イ 10a 当たり収量

主産県の10a 当たり収量は3,110kgで、前年産に比べて3％下回った。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの10a 当たり収量は3,130kgで、前年産に比べて3％減少した。

これは、おおむね天候に恵まれ、いもの肥大が順調だったものの、前年産の作柄が良かったためである。

（表6-6、図6-5）

ウ 収穫量

主産県の収穫量は6万2,200tで、前年産に比べて1,500t（2％）減少した。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの収穫量は6万100tで、前年産に比べて1,600t（3％）減少した。（表6-6、図6-5）

表6-6 平成25年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a 当たり収量及び収穫量（主産県）

区分	栽培面積	収穫面積	10a 当たり収量	収穫量	前年産との比較								(参考)	
					栽培面積		収穫面積		10a 当たり収量	収穫量		10a 当たり平均収量	10a 当たり平均収量	
					対差	対比	対差	対比	対比	対差	対比	対比	対比	
ha	ha	kg	t	ha	%	ha	%	%	t	%	%	kg		
主産県計	3,570	2,000	3,110	62,200	10	100	0	100	97	△ 1,500	98	109	2,860	
栃木	133	80	2,660	2,130	△ 17	89	△ 10	89	119	120	106	108	2,470	
群馬	3,430	1,920	3,130	60,100	20	101	10	101	97	△ 1,600	97	109	2,870	

注：こんにゃくいもの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成25年産については主産県を対象に調査を行った。

(6) い (主産県)

ア 作付面積

主産県 (福岡県及び熊本県) の「い」の平成25年産作付面積は818haで、前年産に比べて36ha (4%) 減少した。

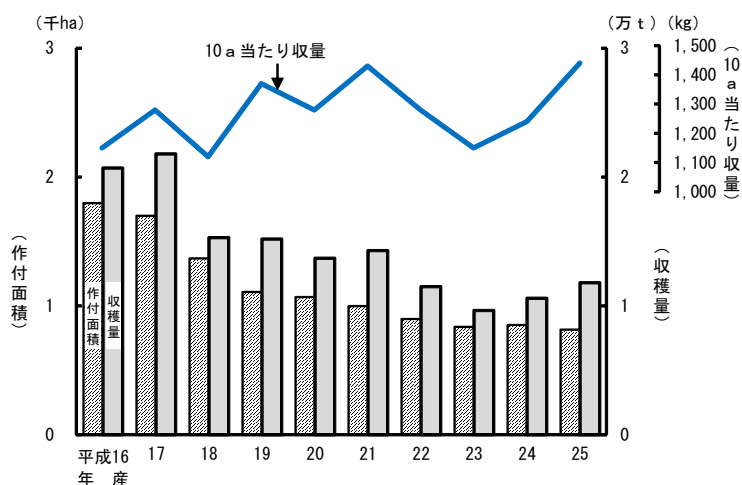
これは、他作物への転換等があったためである。(表6-7、図6-6)

イ 10a 当たり収量

主産県の10a 当たり収量は1,440kgで、前年産に比べて16%上回った。

これは、4月から5月にかけて天候に恵まれたことに加えて、6月から7月の高温等により伸長が良好となったためである。(表6-7、図6-6)

図6-6 「い」の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移 (主産県)



ウ 収穫量

主産県の収穫量は1万1,800tで、前年産に比べて1,200t (11%) 増加した。

(表6-7、図6-6)

エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は622戸で、前年産に比べて17戸 (3%) 減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は615戸で、前年に比べて6戸 (1%) 増加した。

なお、平成24年7月から平成25年6月までの畳表生産量は3,430千枚で、前年に比べて110千枚 (3%) 増加した。(表6-7)

表6-7 平成25年産「い」の作付面積、10a 当たり収量、収穫量等 (主産県)

区分	「い」 生産 農家数	作付面積 ha	10 a 当 た り 収 量 kg	収 穫 量 t	前年産との比較					(参考)		畳表生産 農家数	畳表 生産量 千枚	
					作付面積		10a 当たり 収量		収 穫 量		10a 当たり 平均収量 対 比			10a 当たり 平均収量
					対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比				
主産県計	622	818	1,440	11,800	△	36	96	116	1,200	111	114	1,260	615	3,430
福 岡	17	17	1,310	223		3	121	104	47	127	107	1,230	16	61
熊 本	605	801	1,450	11,600	△	39	95	117	1,200	112	115	1,260	599	3,370

注：1 「い」の収穫量調査は、福岡県及び熊本県を対象に行っている。
 2 「い」生産農家数は、平成25年産の「い」の栽培を行った農家の数である。
 3 畳表生産農家数は、平成24年7月から平成25年6月までに畳表の生産を行った農家の数である。
 4 畳表生産量は、平成24年7月から平成25年6月までに生産されたものである。